



民主主義を実践する市民の育成を ～主権者教育を広めていこう～

Heart to Heart

スウェーデンの総選挙の投票率は なぜ高い!?

スウェーデンの総選挙(2018年)の投票率は87・2%、18〜24歳は84・9%にのびます。日本では、前出の特集にもある通り、若者の投票率は低水準と言わざるを得ない状況です。スウェーデンの若者の投票率が高いのはなぜでしょうか。消費税(付加価値税)が25%など高税率な国なので税金の使い方(予算)に対する厳しい見方があるのかもしれないが、一番の理由は「自分が投票したら社会が変わる」という意識ではないでしょうか。

「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」(2018年・内閣府)によると、政治に対する関心度を日本の若者に聞いたところ、「関心がある」は43・5%で、ドイツ70・6%・アメリカ64・9%・スウェーデン57・1%など調査対象7カ国中で一番低い回答でした。さらに、「個人の力では政府の決定に影響を与えられない」との問いに、「そう思う」と答えた日本の割合は58・5%で、ドイツ57・4%・アメリカ54・8%とそれほど変わりありませんでしたが、スウェーデンは41・1%と7カ国中で立って低い回答でした。「自分が行動することで社会を変えることができる」…スウェーデンの若者がそうした意識を強くもつのは、幼児教育から高等教育まで主権者教育が行き届いているからだと思います。

清水事務局長の

ハート・トゥ・ハート

vol.4



主権者意識を高めるために!

学校の校則について、スウェーデンでは「自分が作る」という意識ですが、日本では「守りなさい」というものになっています。小学校で遊具を購入する際、子どもたちに予算を示した上で話し合いをさせ、希望を出すことを教えています。また、総選挙とEU選挙を対象とした「学校選挙」という模擬選挙の制度があり、投票日の2週間前に、中学・高校で実際の選挙と同じ政党・投票用紙で投票を行い、

全国集計されます。そして、実際の投票結果が出たすぐ後に公表されます。「学校選挙」は国の要請を受けて生徒組合が主催し、若者市民社会庁・選挙管理委員会・学校教育庁が協力団体となっています。参加は無料で費用は国が負担します。

主権者教育の目的は、民主主義社会を担う主権者の育成であり、社会の形成者(市民)としての資質の育成です。児童会・生徒会活動は、主権者教育の具体的な実践の場です。図書委員会や美化委員会などの活動は、議会の常任委員会に当たります。最近では、授業を確保することが優先で、役員選挙も立候補者が定数通りに出たらもうそれによしとして、競争選挙を避けてしまうという傾向があります。私は、逆に必ず競争選挙になるよう働きかけ、ポスター掲示や朝の昇降口でタスキを掛けて訴えることの大事さ、自分への投票を呼びかける際になぜ館を配っちゃいけないのかなどを教えました。

2019年の統一地方選挙の無投票当選者は、都道府県議26・9%、町村議23・3%で、いずれも過去最高となりました。都道府県議会で無投票となった選挙区は37・2%であり、地方自治の危機とも言われています。「私の一票が社会を変える」…今年も参議院選挙、来年は統一地方選挙があります。ぜひ投票に行きましょう。



清水秀行 連合事務局長